

1 番 瀬 戸

おはようございます。議席番号1番、瀬戸恵津子でございます。

私は、公共交通機関の充実と高齢者の暮らしやすい生活環境をということを質問させていただきます。

要旨、第5次総合計画後期基本計画の中で、公共交通機関の充実と高齢者の暮らしやすい生活環境の整備について質問します。

(1) 公共交通機関の整備について。

山北町では生活交通確保対策として、平成17年12月より町内循環バスを運行しており、町内循環バスが運行されない清水・三保・高松地区では高齢者福祉タクシー助成事業を実施している。本年度から、さらに、この地域の方々へタクシー券の枚数をふやすとともに、これらの地域以外の共和・平山瀬戸地区の方へもタクシー券を配布することとし、平山瀬戸地区以外の山北・岸・高松地区以外の向原地区の方へは町内循環バスの助成券を配布することとなったことに対して、質問いたします。

1、運行エリアやダイヤの充実が先ではないのか。免許証を返納される方や買い物や外出支援として利用できるのか、また生活交通の確保となり得るのか、3月定例会の予算審議において、本当に必要な地区としての配慮や支援を検討すべきだと提案したが考え方は。

2、町内循環バスの車両の耐用年数もあと数年であることとスクールバスに対する考え方、この2点について、今後の展望を伺う。

また、庁内で新たな公共交通対策の検討をされているが、所管がそれぞれ違う幾つもの交通体系をそのままにしてよいのか、再構築する必要があると考えるが考え方は。

また、総務環境常任委員会では研究してきたが、デマンドバスや乗り合いタクシーのシステムの導入は検討されているのか。

次に2つ目です。高齢者の暮らしやすい生活環境の整備について。

敬老祝い金事業は、今年度から喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿等の節目に贈ることにしたが、商品券であるのでイメージとして買い物支援につながると思う。商店街へ9月、10月の一定の日いちで買い物デーとして、外出支援を考えるとともに、日常的な買い物支援制度についてはどのように考えるか。

2、敬老のつどいは、全参加者に送迎の要望を聞いたらどうか。山北地区

は個別に参加することなので、歩くことが困難な方が参加できずに、参加者が少なくなっている。何のために行うのか、もちろんお祝いする気持ちが第一だが、外出の機会をふやすためでもあるので、検討すべきと考える。

以上誰にも優しい公共交通ネットワークの強化・充実を関係機関と連携しながら速やかに推進されますよう質問いたしました。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、瀬戸恵津子議員から「公共交通機関の充実と高齢者の暮らしやすい生活環境を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の「公共交通機関の整備について」1番目の御質問の「運行エリアやダイヤの充実が先ではないのか。免許証を返納される方や買い物や外出支援として利用できるのか、生活交通の確保となり得るのか、3月定例会の予算審議におきまして、本当に必要な地区としての配慮や支援を検討すべきだと提案したが考え方は。」についてであります。町内の公共交通機関につきましては、もともとJR御殿場線と路線バスがありましたが、平成16年2月に富士急湘南バスから山北、岸、向原、平山地区を通る4路線の廃止の申し出を受け、それまでの生活交通レベルを確保するため、道路運行法の許可を受けて、廃止路線区間に町内循環バスの運行を開始したものであります。

町内循環バスは、限られた2台の車両で運行している状況ですが、利用者の利便性の向上のため、これまでも御殿場線の接続に合わせたダイヤ改正や路線の変更等により、運行エリアやダイヤの充実を図ってきており、今後も利用者のニーズに可能な限り柔軟に対応していきたいと考えております。

そして、今後も運転免許証を返納される方や、高齢者の買い物、外出支援など、本当に必要な生活交通となるよう、利用状況を分析するとともに、利用者の御意見等を聞きながら、さまざまな検討を行い、町民の皆様が利用しやすいものにしていきたいと考えております。

次に、2番目の御質問の「町内循環バスの車両の耐用年数もあと数年であることとスクールバスに対する考え方、この2点について、今後の展望を伺う。また、庁内で新たな公共交通対策の検討をされているが、所管がそれぞ

れ違う幾つもの交通体系をそのままにしてよいのか、再構築する必要があると考えるが考えは。総務環境常任委員会では研究してきたが、デマンドバスや乗り合いタクシーのシステムの導入は検討されているのか。」についてであります。まず、町が所有する町内循環バスの車両の耐用年数について、運行整備委託をしている富士急湘南バスに確認したところ、車体やエンジン等の状態や走行距離などから判断すると、突発的な故障がなければ、今後10年程度は運行できるということでしたので、今後も委託先と調整しながら、安全運行ができるよう車両管理を行っていきたくと考えております。

また、スクールバスにつきましては、清水、三保地区の児童、生徒の通学手段として、小学校2路線、中学校3路線を車両運行事業者に業務を委託し運行しており、原則、児童、生徒以外の者が乗車することはできません。

また、このほか町には、福祉タクシー、共和地区福祉バス、さらには民間の富士急湘南バスなど、その目的や所管が異なる交通体系がありますが、これらを整理することも必要であると考えます。

しかし、幾つもの交通対策があると、仕組みが煩雑で多くの経費が必要となるかもしれませんが、特定の地域や特定の利用者の方々に対して、個々の状況に合った、きめ細やかなサービスを提供することも可能となります。

このため、当面は利用者の皆様がそれぞれの目的、用途で活用していただき、デマンドバスや乗り合いタクシーのシステムの導入についても、庁内の地域公共交通ワーキンググループにおいて検討を進め、民間の事業者とも連携して交通体系を再構築してまいります。

次に、2点目の「高齢者の暮らしやすい生活環境の整備について」1番目の御質問の「敬老祝い金事業は、今年度から喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿等の節目に贈ることにしたが、商品券であるのでイメージとして買い物支援につながると思う。商店街へ9月、10月の一定の日を以て買い物デーとして、外出支援を考えるとともに、日常的な買い物支援制度については、どのように考えるか。」についてであります。町では、敬老祝い金について、本年度より米寿等の長寿を祝う節目の年と最高齢者に5,000円から5万円の範囲の中で商品券を贈ることといたしました。

御質問の9月、10月の一定の日を買い物デーとして、外出支援に結びつけ

ることにつきましては、今年度より高齢者に対するタクシー券助成地区の拡大や助成額の増額、循環バス回数券の配付を開始したところでありますので、これが年間を通して、一定の外出支援につながっていくものと考えております。

しかし、日常的な買い物支援制度としてのタクシー券や循環バス回数券は、利用できる額が限られておりますので、今後、高齢者や障がい者を含めた町民が誰でも利用できる買い物支援策の調査研究・検討を進めてまいります。

次に、2番目の御質問の「敬老のつどいは、全参加者に送迎の要望を聞いたかどうか。山北地区は個別に参加することなので、歩くことが困難な方が参加できずに、参加者が少なくなっている。外出の機会をふやすためでもあるので、検討すべきと考える。」についてであります。今年度から、敬老のつどいにつきましては、75歳以上の方全員に郵送により開催のお知らせをしていますので、送迎の要望等につきましても、電話等で申し込みをいただけるよう御案内いたします。

また、従来、会場に近い方については送迎バスの利用はできませんでしたが、今年度からは運行方法を見直し、送迎を希望される方全員に対応できるよう考えてまいります。

議長 瀬戸恵津子議員。

1 瀬戸 瀬戸 1 瀬戸でございます。

今全体のお答えを伺った中でわかったことは、循環バスの路線とか、時間の変更はなさない、やるということは一つもお答えにいただけませんでした。まず、そこが第1点なんですけれども、最初に伺います。福祉タクシー拡充事業についてなんです。福祉タクシーは、ここには余り書いてございませんが、福祉タクシーの利用できる範囲を広げたということはわかりました。それは大変ドアツードアの、町長の公約のとおりでございます。実現に向けて、これは大変よいことだと思っておりますが、循環バスの券を配布、その他の山北・瀬戸・平山地区と、あと以外の山北と、あと岸地区と、あと高松地区以外の向原地区の皆さんには循環バスの補助券を5,000円分配付してくださるといふ、こういう2つの内容の拡充だったと思うんですが、それについての私が利用するのには利用する車が走っただけでは利用できないと

いうことから、今回の質問させていただいているんですが、その券については、そのことに手をつけることは今の状況では難しいということなんですか。伺います。

議  
町

長  
長

町長。  
循環バスについては、毎年でもないんですけど、3年ぐらいで見直しをどんどんかけておまして、回る場所も、あるいはほかのところもできるだけ皆さんが利用しやすいように、実際に変えております。また、運行時間そういったものについても、そのたびごとに変えられるものは変えております。しかし、実際に例えばうちのほうの向原ですと、もう少し中へ入ってきてくれないとか、そういったような要望もありますし、さまざまな要望、つまりバス停に行くまでが距離が長いとか、そういったようなことは聞いておりますので、それが実際にできるところと難しいところがございますので、もちろんできるところについては検討して、これからやっていきたいというふうに思いますけども、最初から申し上げますけども、基本的にはタクシー券についても循環バスについても、これが最終形ということではなくて、常に直していこう、よくしていこうというふうに考えておりますので、ぜひとも難しいことはいろいろあるとは思いますが可能なものについては見直しをかけたか、あるいはまた金額の増額とか、あるいは別の方法があれば、そういったことも含めて、これからも検討していきたいというふうに思いますので、いろいろな御意見をいただければというふうに思っております。

議

1 番 瀬

長  
戸

瀬戸恵津子議員。  
瀬戸でございます。  
常に直していこうという、そういうふうに常に直せるという状況にあるということはわかりました。  
それでは、まず駅周辺にお住まいの方はいいんですが、こっこの県道 74 号線のほうにかかる場所は 9 時台から 14 時台までに 1 本も通らないということなどについては、要望が把握できれば可能性があるというふうに捉えてよろしいでしょうか。

議  
町

長  
長

町長。  
要望ももちろん必要ですけども、やはり中型バスが実際に運行できるのか

どうか、それだけの幅とか、そういったものがあるのかどうか。一番苦慮しているのは湯坂のところですね。一部拡幅したりしてやらせてはいただいておりますけれども、そういった意味では、現実には、もちろん、すれ違わなければ通れる道はいっぱいあるんですけど、やはり対向車が当然ありますので、そういった中で循環バスを通していいものかどうか、その辺は町だけのことでなくて、バス会社あるいは警察との協議が当然必要になってくるというふうに考えております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 瀬戸でございます。

今、狭いところへの、確かに、湯坂地区などは地域の方の御努力もあって拡幅していて、本当にあそこところはすばらしいと思いますが、私が申し上げ、それはそれで、これからもどんどん研究していただきっていいことだと思います。例えば、うちの小学校の宮地のところから城山のほうへ向けていく道なども通れば、非常にいいなと思うんですが、あそこは通学路でもありますので難しいかなと思いますが、県道の74号線沿いに通っているものがあれば、今までもあちらのほうの方、城山とかの地区の方も、そのバスを利用されていたんですね。ところが、今県道74号線でありながら、今私申し上げたように、いわゆる高齢者や通学通勤以外の方が利用する、誰もが利用できるという観点から言いますと、10時から14時まで何もないというのはいかなものかなということ声を上げる方もいなかったのか、あるいは交通会議なんかでも意見も出なく、このような福祉タクシーの拡充の中で、バス券配布が決まってしまったのかというところが、大変残念でありましたので、今こういうふうに質問しているわけでございます。

今2点申し上げましたけど、地域交通会議については、そのような、これでよいのかというようなことは検討なされなかったのかどうかということと、県道74号線でありながら、こういう状況というのは改善できないのかという、この2点お答え願います。

議 長 副町長。

副 町 長 県道の関係等も日々改善するようには調整はしております。ただ、県道であればいいのかと。福祉タクシー全部をやっちゃうんじゃなくて、できたら

循環バス、みんな回したいんです。お年寄りの方がみんなお隣の方とか、みんなんで出ていただけるように。例えば、ある議員さんのところだと、ちょっと最寄りのバス停まで歩いて二、三十分かかるところもあります。そういうところは福祉タクシーでやらなきゃいけない。けども、本当はバスとしたいんですよ。そういうようなことも町長の思いもあります。

それから、過去にも、川村小学校の通学の関係で、平山地区の関係はバスが利用できるように時間を変えました。それから、岸地区に商業施設ができたときには買い物シーンにつながるようなバスの時間帯になるようにしました。そういうような形で、今後、町としても一生懸命考えておりますので、その辺のところは本当にタクシーをやればいいというふうには、一切思っておりません。タクシー券を渡せば、本当に皆さんが循環バス、そういうふうな公共交通の中で利用していただける。というのは、県道でありながら、山北診療所、谷ヶにありますが、その方が診療終わって午前中、清水・三保地区に帰るバスはありません。まず、そういうところから解決していただきたい。その同じ歩くでも10キロとか15キロ歩く距離がないわけですよ、公共交通機関がね。そういうところから改善する、そういう場合は、まず福祉タクシー、けど本当は循環バスでやりたいという思いは町長も十分持っています。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 瀬戸でございます。

循環バスに対して、今後も続けて、なおかつ前にも堀口議員からもありましたけれども、私も観光利用にも必要なものだと思いますし、スクールバスとしても、本当に活用できていて、なのに、なぜというところがあるんですが、循環バスは今後ずっと10年大丈夫だということですので、続けていくのであるならば、もっと今副町長がおっしゃったように、外出支援とか免許返納のために使うには、そういうふうに変更に時間とか、ルート路を変更とか、もっと早くしてほしいということを引きょう申し上げているわけで、やるべきだということをお願いしております。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、変えられるものは、また皆さんから御要望の大きいもの

で、可能なものは積極的にやっていきたいというふうに思っておりますし、また将来的には、今のこういったようなコンピューターのAIなどの発達を見ますと、将来的には自動運転でできるのかなど。または顔認証がつけば、そういったようなことも、我々が今まで経験しないような、そういったような交通方法というような、公共交通というの也被えられるのではないかなどというふうに思っておりますので、将来はそういうことも可能かもしれない。しかし、今現在はそれに出ないわけですから、それを補完する意味で、できるだけ、さまざまな方法で皆さんに生活しやすい山北町に住んでよかつたと思われるような、そんなような交通体系をしていきたいというふうに思いますので、ぜひいろいろな提案をいただければ、町のほうでも検討していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 1 番、瀬戸でございます。

将来的なお話はともかくとして、今の現在のお話を進めていきたいと思うわけでは。総合計画の後期基本計画の中で、循環バスの利用者の目標値が2023年に4万4,000人とあるんですが、これは6年間で三千六百何人というものをふやしていこうということなんですが、何か目標値を出すには根拠があると思うんですが、お聞かせ願ひたいと思います。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 総合計画の後期基本計画のほうに、循環バスの目標値ということで指数という形で入れさせていただいております。

循環バスの乗車人数についてでございますけれども、これはあくまで町内循環バスということで、新松田のほうに行くバスは含んでおりませんが、2万4,243名、これが30年度の実績でございます。29年度につきましては、若干下回っておりまして、2万5,001名という形になってございます。

それで、これらの数字を過去の数字等を勘案した中で、このような数字で総合計画のほうには上げさせていただいておりますけれども、実際、瀬戸議員がおっしゃられるようにお客さんのニーズを聞きながら、できるだけお客さんが乗っていただけるような形で運行ルートですとか、運行時間のほう、見直し等を検討した中で、このような指標として、総合計画のほうには上げ



させていただいているところでございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 1 番、瀬戸でございます。

では、ニーズを把握と言われましたが、この総合計画の中で、町内交通基盤についての不満が、悪いというのが40何%で、すごく悪いというのが20%両方合わせて60%ぐらいあるんですよね。ですから、これは、もう私も総務委員会で、ずっとやってございましたが、人口減少を克服するには、やはり町長も言われるように、交通基盤の整備が大事だろうということと捉えておられるのはわかりますが、捉えているのはわかるんですが、それに対しての実効策としての改善がちっともなされてはないんじゃないかというところで、遅過ぎるんじゃないかなという、把握していると言いながら、じゃあ、どういう形で把握されたのか、利用者から把握したのか、高齢者から把握したのか、免許返納者から、今でこそ免許返納者で、今、時期的に、すごい問題になっておりますが、以前からもあることで、このような、山北町のような広範囲の地域の広い町にとっては、本当に交通基盤は命のもとだと思いますので、ぜひ、その点について把握の仕方は、じゃあ、把握をどう受けとめて、どういうふうにしようとしているのか。全然、このただ4万4,000人、じゃあ今は2万5,000人だよと。じゃあその差をどうやって埋めていくのかという方策は、私は町長から伺いたいなと思って質問しました。

議 長 町長。

町 長 毎年総合計画、毎年ということはないですけど、総合計画を、5年のものをつくるときに、当然、アンケート等全年齢に対して、できるだけ真ん中というか、生産人口というんですか、そちらのほうになるべく集中をさせて、アンケートを送らせていただいて、若干若い方と高齢者の方には、若干少ないというようなことにはなろうかと思えますけれども、その中で送らせていただいて、回収率が6割ぐらいあるのか。たしか6割ぐらいの回収率の中でそのような希望、あるいはどういう要望があるかということで、その中で、ずっとここ何年も一番が公共交通ということで、やはり山北町の住みにくい、あるいは問題になっているのは公共交通だということで、そのために、特にJR東海さんには何度も何度もあれしているんですけども、一向にらちが

なかなかいかない、ICカードについては、一步前進して、大変ありがたいなというふうには思っているんですけど、それを待ってもいられませんから、いろいろな方法の中で、町で考えられる循環バスも含めて、福祉タクシー、そういったようなことを含めてできることから手をつけさせていただいている。

瀬戸議員から見たら遅いとか、まだまだというのは、お叱りはもっともだというふうには思いますが、ぜひ、これからも最優先でそのことは考えておりますので、そういったことは総合計画の中でもしっかり位置付けをして進めていきたいというふうに考えてございます。

議 長  
企 画 政 策 課 長

企画政策課長。

済みません、先ほどの総合計画に載っている指標の町内循環バスの利用者数についてなんですけれども、私、先ほど町内循環バスのみの利用者という形で、2万4,000何がしという数字を言わせていただいたんですけども、総合計画のほうに載っております、この実績値として載っている4万342人というのは、循環バスプラス山北から新松田まで行っているものもございしますので、それらを全部含めた中で4万342名というような形になってございます。

それを目標値といたしまして、2023年には、この4万342名を4万4,000まで目標としていきたいというような形になってございますので、先ほど、ちょっと説明の仕方がちょっと悪かったと思いますので、訂正のほうさせていただきたいと思います。

議 長  
1 番 瀬 戸

瀬戸恵津子議員。

そうですね。今まで伺っていたのは2万台なのに、どうして4万になるのかなと思ったんですが、以前、副町長からも御説明いただきまして、新松田のほうは、結構、利用者も多く収益も上がっているということで、財源的には町の持ち出しが少しは楽になるような傾向になるのではないかとということも聞いておりましたので、総合計画は絵に描いた餅ではないと思いますので、では、じゃあこの計画を、目標を達成するためにはどんな計画があるのかなというところを伺いたいと思います。

議 長

副町長。

副 町 長

先ほどのアンケートの結果なんですけれども、ちょっと読まさせていただきますと、新たに整備、交通関係ですね。整備拡充等を望む主な意見なんです、交通手段ですが、まず1番は御殿場線の本数をふやしてほしいというのが1番です。それから、あとは町内循環バスの新規の路線をやってほしいという意見です。それから、駅周辺の駐車場、もうちょっと駅周辺にふやしてほしいとか、あとはタクシーの助成制度をさらに充実してほしいという意見が町民の方から多く寄せられています。それは、町としても十分承知した中で、循環バスで言いますと、先ほど、瀬戸議員が新松田までというふうな形で言いましたけれども、それはもう御存じだと思いますが、町の議会からの提案の中で、回送で今まで人を乗っけないで、空車で山北町まで来ていたバスを新松田まで実車として動けるようにという形で、これも一つの工夫なんです、そういうふうな形で調整したものが、今の新松田まで行くものの延長になっているということでございます。そのような形の中で、町長としても、町としても新規路線の開拓といいますか、新規路線をちょっとふやしてほしいというようなこともありますので、御殿場線のほうにJR東海という強敵がいるものではありませんので、町側で動かせるものです。

それから、富士急湘南バスというのは、これ民間の事業者で、これ、また町でやっているものではありません。本数もかなり減ってきています。国庫補助を導入してやっていますけど、国と県の補助で西丹沢線はやったとしても、年間1,400万ぐらいですから。ですから、本当に本数的には限られてしまっていると。そうすると、それは何かで補填しなければいけないという形のもの、その辺のところは町長の指示で、また交通の関係で本当に前から言っている、町長も言っていたとおり、これで最終形じゃない、生き物なんだと。いろんな面でスクールバスも含め、共和の福祉バスも含めた中で、公共交通の町がかかるものについては、1回再構築していきたいというふうな考え方を持っていますので、それに向かって、本当に交通の便が悪いというアンケートは非常に多いんですが、少しだけでも少しでも解決していきたいように努力をしていきたいというふうに思います。

議 長

瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸

1 番、瀬戸でございます。

では、具体的なものは、まだ新規路線を開拓するという以外に事業というのは発表できないということですか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 瀬戸議員の御質問の中にもございますように、現在、役場内部のワーキンググループがございまして、その中でさまざまなことについて、関係課の主幹クラスの職員がメンバーとなっておりまして、検討を進めているところでございます。

昨年度につきましては、3回ほど、実施させていただきまして、現状の町が行っている移動支援の実態等について、利用状況ですとか、その辺の関係も状況をまず把握したということが1点ございます。

その次に、それでは、山北町ではどのような移動支援を行ったらいいかということで、議論を進めてきたわけでございますけれども、昨年度につきましては、まだ結論が出ていないような状況でございまして、昨年度ワーキングの中では、やはり当面は福祉タクシーのほうを手厚くしていくしかないのではないかとといったような関係で、今年度から福祉タクシーのほうを充実させていただきまして。

今年度につきましては、来月の1回目のワーキンググループ、ワーキング会議を実施するような予定となっておりまして、今年度中に3回程度、ワーキングを開きまして、ある程度ワーキングとしての考え方を整理して、理事者のほうに御相談をしていきたいというふうな形で考えてございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 1 番、瀬戸でございます。

循環バスは、ずっと活用の仕方というのは、これは知恵を出せば考えられるんじゃないかと思いますが、確かに、福祉タクシーが一番ドアツードアでいいと思うんですが、じゃあ、今おっしゃったように福祉タクシーの充実ということが、これからで、この循環バスの目標値に対してのお答えとは、ちょっと違うと思うんですが、いかがでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 福祉タクシーの充実、町民の皆さんにタクシー券を配って、お金をやればいいという、そういう問題じゃないと思うんですよ。私、先ほどから再三申

し上げているように、町民の方が隣近所と一緒にしてお出かけできる、そういうふうなふれあいがあるようなまちづくりをするには、やはり福祉タクシーじゃなくて、さっき言った循環バスとか乗り合いのそういうものとか、そういうものを考えていかなければいけないというふうな形で考えていますので、まずはその目標値というのは、循環バスはできるだけ利用してもらえようように希望に添った形で、実際に動かすように最大限した中で、それで努力をしていきたいということの総合計画、計画の目標でございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 鶏か卵かになってしまうかもしれませんが、乗ろうと思っても乗る時間にバスが来ないから乗れないから利用率が高まらない。利用率が高まらないと減便する、富士急はですね。ですから、そこを根本が何にも議論されているのかな、されてないのかな、わかっているんだろうけど、おっしゃらないのか、お金がかかるからどうなのかとか、いろいろあるんですが、では、その循環バスを充実したいんでしょうから、それをもっと早急になぜできないのかということを知っているんですが、それも検討されてないんでしょうか。

福祉タクシーは福祉課、循環バスは企画、スクールバスは教育ということで、みんな違うので、双方の融通性というのは、じゃあそういう市内何とか会とかって、融通性というのは保たれているのでしょうか。双方の連絡は。

議 長 副町長。

副 町 長 それぞれ所管が違うところについて、例えば私、町長も申し上げましたとおり、教育委員会所管、福祉課所管、企画課所管、それぞれどうなのかという問題もあります。それから、例えばスクールバス。これは、一般の方は乗れないのかという議論もあります。

そうしたときに、どっかで、1カ所で、それを調整した中で、子どもの安全・安心が最優先であれば、まずそれはいいでしょうと、スクールバス。だけど、それが終わったら、今度は町内に走らせることもできるだろうと。そういう場合に、じゃあ、経費はどうなのかと。そういうふうな形で、いろいろな面で検討していかなきゃいけない。例えば、福祉タクシーについても、免許返納者についても、循環バスが、割ときめ細かく動くようになれば、例

えばバス停までかなり歩いていた方も、そのタクシーを使った中で、バス停まで行けるという場合もあるかもしれない。それから駅まで国鉄、JRというんですかね。鉄道の駅までタクシーで行く場合もあるかもしれない。その辺のところをかなりいろんなケースが例になっています。

ただ、言えることは今までのように、これは何課、このバスは何課、これは何課ということではだめだということは町長、明確に申していますので、その辺のところはしっかりとワーキンググループで垣根を超えた中で、よく言うんですけど、行政の、縦割り行政をなくした中でやっていけばというふうな形で考えています。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 1 番、瀬戸でございます。

それでは、そのようにできるだけ所管課の縦割りにならず、今、図らずも副町長がおっしゃいました。スクールバス、朝おろしましたその後、昼もずっとあいています。3時になるまでずっとあいています。その間の活用はできないのかな。そういうことと、循環バスに対して、そこへ福祉タクシーで乗れない方は、そこまで乗っていくとか、そういう組み合わせの連携がちゃんとできなければ、こういう真剣に本当にこの利便性を高めようと思う気持ちがあれば、それは解決できていくことと思うんですが、どうも、ちょっとその何かどこが中心なのかなということ、とにかく今、きょうの御答弁では、循環バスにはかなり気持ちがあるということなんですけど、それを、じゃあ利便性を高めるということに対しては、いまいち、福祉タクシーの断面みたいな部分もありますでしょうし、新しいものといいますと、じゃあ、デマンドバスとか、中井町がやっているデマンドバスとか。またセミデマンドバスとか、そういうものについても考えが至っているのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、デマンドバスとか、そういったものについても、当然、検討というんですか、頭の中にはかなり前からございます。そのときに一番の、成功例もありますけど、失敗例も非常に多いということで、やり出してやめられないというのは、この事業だというふうに思いますので、どうしても生活交通に関しては、町のスタンスとしては、やり始めたらやめないとい

うスタンスでおりますので、そういった意味の中で、デマンドバスの前に、やはりその今、スクールバスがあいている期間とか、そういったほうが、先に考えなきゃいけないんだらうと、その先にデマンドバスとか、そういったものもあるのではないかと、オンデマンドとかデマンドでやってしまうと、やっぱり乗る人が少ないからやめたというわけにはいかないのが、この難しいところだというふうに思いますので、基本的には、どの政策も利用者がある限りやりたいというのは、私の考えでございますので、少ないからやめるというのは考えておりませんので、そういった意味で難しいのは、今デマンドバスというのは、なかなかハードルが高いのかなというふうに考えております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 1 番、瀬戸でございます。

最初に申し上げましたように、循環バスのことで、まだ利用価値が、十分使い勝手、町民の要望とかも循環バスで対応できることがいっぱいあると思いますので、そこは、ぜひ知恵を出していただきたいと思います。

それで、先ほど観光バスとして、何しろ、ああいう形ですから、もう当初から観光的なメリットがあるだろうと思って、あの形を選ばれたんだと思うんですが、三保とか中川、あるいは清水とかに観光という視点で観光ルートという。これは生活交通からちょっと離れてしまいましたが、観光という形で回すことはお考えにならないのか。考えるべきだと思うんですが、いかがですか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、もし観光で、今は観光としては、やはり西丹沢のほうへ向かわれるバスが一番観光客としては多いということで、町内のほうで、利用者を見ておりますと、やはり町内の方、あるいは観光で来られた方でももちろん乗ることはあると思うんですけど、やはり今の状態では、洒水の滝あたりが、整備ができませんと、若干やはり回って、じゃあ循環バスに乗ってどこに観光に行くんだということになってしまいますので、そういったことも含めながら、山北町の、この循環バスで一番の目玉とすれば、おそらく洒水の滝あるいはこの河村城址というようなことになろうかというふうに思

いますので、そういった流れの中で、どのような循環バスの観光利用ができるかも考えていきたいというふうに思っておりますけど、一つだけ何というんですか、期待が持てるのは、高松山が非常に観光の登山をされる方が年々ふえておまして、東山北でおられた方、あるいはバスで来られた方、時には山北駅でおられてもここへ向かってくる方がいらっしゃるというのは、非常にありがたいことではございますので、そういった意味では循環バスも高松山も利用範囲の中に入ってくるのではないかとこのように考えております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 1 番、瀬戸でございます。

確かにそうです。河村城址に時折上っていきますと、これから、どこに行かれるんですかという、洒水の滝と、結構、中川温泉に泊まろうと思うんですという方が、今、割合山城に行かれる、来られる方、結構、中川までは伸ばすということが、もうちゃんと頭の中にあるんですね。ですから、そういうところも、先にキャッチして、そういう手当をして、利用者がふえるように先に、後から言われてからではなくて、ぜひそういうふうにしていただきたいと思えます。

そういつては何ですが、ハイキングの方は、割合と個人消費が余り多くないと聞いておりますので、ぜひお泊まりに行けるようなものも考えて、町を考えることではないと言え、そのような町の意向もちゃんと指導して、民間にお伝えしたいと思えます。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、登山者の方等も個人消費が伸びないということでございますので、当然、その対策というのは、前からいろんなことをやっているんですけど、お土産だったり、食べ物だったりということでございますけれども、今年度、特にあしがら観光圏については、食をテーマに観光をやるということですので、来られる方の単価を上げるということについては、食べ物でいこうというふうになっておりますので、そういったアイデアもさらに高めながら、そういった方の個人消費を高めていきたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸恵津子議員。



1 番 瀬 戸

1 番、瀬戸でございます。

それでは、さまざまな対策をとっていただきたいと思うわけですが、先日ちょっといいなと思った、いいなとすごく利用価値があると思ったのが、5月30日の御殿場線利活用推進協議会を傍聴しました。初めて傍聴させていただきました。そのとき、会長である御殿場市長が、公共交通利用キャンペーンを行ったら1万人以上、バスの利用者がふえたと、駅がJR御殿場線の利活用ですから、御殿場線の駅が8つもあると。でも山北にも3つございます。それで、御殿場線を利用ということなんでしょうけれども、このキャンペーンを、公共交通利用キャンペーンですから、公共交通全ていいわけですから、こういうものを山北もやるべきだと思います。黙っていても、町民にも、それこそ、民間だって自分が乗らなければ、風が走っているだけだから、何であんなに無駄になるということも含めて、そういう啓発をやるべきだと思いますが。

議

長

町長。

町

長

おっしゃるように、御殿場市さんは御殿場市さんでやっておりますけども、御殿場線の利活用の中でも、そういったことはやっていかなければいけないだろうというふうに思っておりますので、そういったような御殿場線を実際に使って、会議をすとかですね、あるいはそういうキャンペーンを興すとか、というふうなことは、非常に大事なことだろうというふうに思っておりますので、ぜひともそういったことは、これからも山北町でももちろん。ただ、それぞれの町によって考え方が違う分を利活用の団体で、どのように方向性を出していけるのか、そういったことはやっていきたいというふうに思っております。

議

長

瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸

時間がなくなりましたので、では、ぜひ循環バスに対しては、もっと真剣に取り組んでいって、福祉タクシー券、結局、結論的には、今年度は福祉タクシー券の恩恵には、この近いところに住んでいると言えば、それまでなんですけど、歩いて行き来できるところのところでは、福祉タクシーよりコミュニケーションが盛んになれる多くの人利用できる循環バスの券でいこうということで、今年度はもう予算も私どもも認めましたので、決まってしまう

っておりますが、次年度について、またぜひお考えを改めていただきたいと思えます。

それと、敬老のつどいの件でございますが、これは今年度からは郵送で出欠をとると、開催のお知らせをして郵送でとるということですね。そうしますと、今までは自治会長さんや婦人会の方たちが行って、出欠をとっていたのがなくなって、郵送1本にするということの解釈でよろしいのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 そのとおりでございます。今まで、自治会長さんとか、いろいろなことでもいろいろお手間をとらせていただいたりして、そういったことをなるべく簡素化しようということで、配布物等、そういったものもできるだけ町でできるものはやっつけようということでございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 その前のところの祝い金のことを聞き損ねました。これは1人の方が例えば今、75歳の方が2年後に喜寿でいただく。そして、また2年後に米寿で、またいただける。次が、という順になって、米寿まで8年ありますけども、また次は白寿が2年とそういうふうに順に1人の方がいただけるという解釈でよろしいですね。

議 長 町長。

町 長 そのとおりです。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 一生に一遍というような変なうわさが出たんですけども、1人の方が、ずっとこの年、生きていればずっといただけるということでもよろしいですよ。何かよくうまく伝わってないような感じもございましたが。そんなことは聞いておりませんか。おかしいですよ、そういうのは。

議 長 福祉課長。

福 祉 課 長 敬老の祝い金につきましては、今町長が申したように1人の方が1回切りではございません。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 1番、瀬戸でございます。

それでは、買い物支援とか敬老のつどいでの買い物デーについては、何も

お答えがないですね。はい。お考えについては、これは難しいということですかね。

議 長 副町長。

副 町 長 お考えがないと、今おっしゃられたんですが、どういう内容でしょうか。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 質問書に書いていなかったでしょうか。要旨に書いてあります。商店街へ9月、10月の一定の日いちで買い物デーとして、外出支援を考えることはどうかということに対して、それは、じゃあ福祉タクシーで対応するということですか。

議 長 副町長。

副 町 長 9月、10月の一定の日いちではなくて、答弁書の中で、今年度から福祉タクシーとか、その他のものを行ったので、通年でできるのではないのかという、それが外出支援につながっていくのではないのかというふうに考えているということでございます。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 1番、瀬戸でございます。

買い物支援に対しても、大変これ難しい問題があって、町長おっしゃいましたように、一度始めたらやめれないということを考えますと、大変、これについては、慎重を期するとは思いますが、結構、お年寄りの方は自分で歩いていけるコンビニなんかも、すごく有効的に活用しておりますので、コンビニさんのほうも、そのような山北にふさわしいような品ぞろえも確保、3店舗されていると思います。それで、そういう意味では小さな拠点のあれは成果が上がっていると思うんですが、行ける人はいいんですが、行けない方に対しての移動販売車とか、ということについても、これから御検討願いたいと思っております。それがいずれやるよではなく、これは近い将来的な何回も、ほかの議員からも質問も出ていると思うので、ぜひよろしく検討して、すべきだと思っております。

議 長 町長。

町 長 移動販売車については、私は、かなり難しいというふうに思っております。

買い物支援等については、ほかの方法等があるかというふうには思います

けども、本来、買い物支援については、かなり前に商店振興会さんとか、そういうところに、もしそういうような届けていただく、注文を受けてやるんでしたら、町も助成しますよというようなことも投げかけたことは何度かありますけども、なかなか、それではやっていただけない。となると、おっしゃるように特定の企業さんが何というんですか、車で移動販売というようなことが一つ考えられるとは思いますが、やはり、それですと特定の企業というようなところがどうしてもひっかかってくるのと、そして、その運営について、やはり品数が少ないというのが実際のところだと思います。どうしても買いたいもの、それがどうしても移動販売車ですと数が限られますから、選べないわけですね。例えばお豆腐だったらこのお豆腐、パンだったらこれとこれ。肉だったらこれとこれと、3種類とか。サラダだったらこれ。ということで、やはりスーパーへ行って、何種類もある中で買い物ができる楽しさと、やむを得ないから買うという選択肢と、いろいろその事情によっては違うとは思いますが、やはり長続きしない一つの方法としては、移動販売車は、やはりその品数がどうしても限られてしまうことと、それから特定の企業なりがお願いしなければいけない。そういったようなハードルがあるので、それ以外の方法を考えていかなければいけないだろうというふうに思っておりますので、今の町のスタンスとしては、ぜひ来ていただいて、買い物を楽しんでいただく、その来ていただく方法をいろんなタクシー券とか、そういったことで助成していきたいというような考えで、今はやっております。

議 長 瀬戸恵津子議員。

1 番 瀬 戸 終わりにします。1番、瀬戸でございます。

循環バスの充実が、一番最初に申しあげましたように大変重要だということ。アンケートをとるときには、やっぱりどこに合わせるかとか、若い人に合わせるんでしょけれども、これから人生100年時代でも100歳時代でございますので、ぜひ、この中間に動く人、仕事がなくなった人は、大体10時から15時までが一番動くというのは、私たち、研修に行ってきました身延町なんかでは、しっかりそのアンケートもとってございまして、そういう結果が出ておりますので、そこら辺のところもしっかり押さえて、誰にで

も優しい公共交通ネットワークの強化をぜひどんどん速やかに進めていただきたいと思います。

以上です。

議  
町

長  
長

町長。

おっしゃるように、今まで考えもつかないような、そんな方法がないかなと、例えば電気自動車を町で何台かを保有して、開成町や松田駅で乗り捨てができれば、さぞかし便利だろうとか、さまざまな考えが、今までにないようなものをぜひ考えながらやっていきたいなというふうに考えております。

1 番 瀬 戸

終わります。